

成人病からアンチエイジングまで完全網羅!

ホリスティック医学の生みの親

エドガー・ケイシー療法 のすべて

All About
Edgar Cayce Remedies

Shigeru Mitsuda
光田秀

日本エドガー・ケイシーセンター会長、光田秀氏による実践型レクチャー「エドガー・ケイシー療法のすべて」講演録が、ついに全6冊の書籍シリーズで登場!

—「体内毒素の排泄」「体液(血液・リンパ)と神経の循環の改善」「適切な消化吸収」「良質な休息・休眠」—
4つのキーとなる治療を中心に、ホリスティックな観点から様々な疾患にアプローチ! 驚きの症例の数々も!



series

2

・がん

〈予防法および臓器別治療法〉

はしがき

本シリーズは、「エドガー・ケイシー療法」という名で知られる治療体系を、さまざまな疾病カテゴリーごとに6冊にまとめて提供するものであります。

日本でもエドガー・ケイシー療法に関して出版された書籍は20冊近くに及び、健康雑誌でも取り上げられるなど、その有効性が徐々に認知されるようになりました。日常の健康法としてエドガー・ケイシー療法を取り入れている人々も着実に増えてまいりました。

そのような中で、本シリーズは、健康法としての域を一步踏み出して、現代医学がいまだに有効な治療法を見出していないさまざまな疾病について、エドガー・ケイシー療法では原因をどのように捉え、またそれに対してどのように取り組むのか、実際に実行する上で必要になるであろうさまざまな情報と共に提供いたします。

それぞれの疾病ごとに、守るべき食療法、入手すべき治療器具や材料、具体的な治

療法とその施術手順など、特に家庭で実行する上で必要となるノウハウをできるだけ盛り込むように心がけました。しかも、これらのノウハウは、エドガー・ケイシー療法を実行することで素晴らしい成果を得られた人々の実体験から得られたものであり、決して理屈や推論によるものではありません。それだけに、本シリーズで紹介するさまざまな方法は、多くの方々にとって実行しやすく、優れた効果を発揮してくれるものと信じております。

本シリーズは、もともとヒカルランドで行われた全10回の連続講座『エドガー・ケイシー療法のすべて』がベースになっております。そのため、全体的な文体がやややくだけた口語調になっております。特に、講座の中で設けた質疑応答のセッションについては、皆さまの参考になると思われるものを、そのまま収録してみました。会場のやりとりの雰囲気を楽しみながら読んでいただければ幸いです。

本シリーズの中でも、ケイシー療法で使用する特殊な器具・装置については、できるだけ写真や図を示すようにしておりますが、やはりそれだけでは不明な点もあるか

もしれません。宣伝めいて恐縮ですが、もともになる連続講座では多くの治療器具の
物を紹介しております。文章や写真だけではわかりにくいような場合は、これら連続
講座のDVDを利用していただければ幸甚です。

私自身、40年近くエドガー・ケイシー療法を実践し、たくさんのお恩恵をいただいて
まいりました。エドガー・ケイシーのもたらした情報が皆さまの人生にとっても豊か
な祝福となりますことを心より願っております。

NPO法人日本エドガー・ケイシーセンター

会長 光田 秀

免責事項

本書で紹介するケイシー療法は、エドガー・ケイシーが各依頼者に対して与えた情報をもとにまとめたものであり、いかなる効果をも保証するものではありません。

本書で紹介する方法のいずれかを実行しようとする場合は、各自の責任と判断のもとで行ってください。特に、妊娠中の方や持病のある方は、必ず医師あるいはしかるべき資格を有する医療従事者と相談の上で行ってください。万一体調に異変を感じた場合はすぐに中止し、医師の診察を受けてください。

本書で紹介する方法を実施したことで生じるいかなるトラブルに対しても、著者ならびに発行元であるヒカルランドは一切の責任を負いかねることをご了承ください。

はしがき ————— 1

Part 1

がんの予防と食事療法

11

ホリスティック医学の生みの親

エドガー・
ケイシー療法
のすべて
Contents

がんを研究するきっかけとなった2つの死

12

がんの原因は血液の劣化

20

食事のバランスが悪いことが大きな要因

25

獣の肉と揚げ物はだめ、エビ・カニ以外のシーフードはOK

31

薬物野菜を食べ、糖分の多い炭水化物を避ける

34

食べ方にも注意が必要

38

柑橘系の果物と1・5リットルの水 ————— 4

講演参加者からの質問 ————— 45

夢は自分の体の状態を教えてくれる ————— 52

ゼラチンとビーフェジューズ ————— 60

Part 2
エドガー・ケイシー療法の実践 —————
毒素排泄法、「フラーレン・フォトセラピー」 ————— 65

毒素排泄はひまし油パックと腸内洗浄の組み合わせ ————— 66

講演参加者からの質問 ————— 74

炭素灰の正体はフラーレンだった！ ————— 81

血流で移動したフラーレンに光を当てる！ ————— 85

「フラーレン・フォトセラピー」の実践例

95

照射はバイオレットレイや赤色ランプを使用

103

「フラーレン・フォトセラピー」のがん部位別照射法

106

Part 3

がん治療を助ける

115

ハーブと部位別の治療法

オオバコはがん全般に有効な万能ハーブ

116

オオバコローションのつくり方と保存方法

117

遺伝子修復酵素を持つオオバコ

120


オオバコ茶のつくり方と保存方法

122

アメリカヤマゴボウは市販の強壮剤で摂取

123

最強の滋養強壮剤、ビーフェュースのつくり方と注意点	127
講演参加者からの質問	133
治療法を教えてくれた不思議な夢	141
放射能について	146
がんの部位別治療法	150
巻末資料1 リーディングに見られるがん治療一覧	161
巻末資料2 がんに関するリーディング翻訳原文	200
ケイシー療法による がん治療を受けられるクリニック・治療院	230
あとがき	232



本書は2017年3月9日に行われた、ヒカルランドパーク5周年の記念イベント、「エドガー・ケイシー療法のすべて 第2回エドガー・ケイシー療法とがん」の講演内容をまとめたものです。

— Part 1 —



がんの予防と食事療法

◇ がんを研究するきっかけとなった2つの死

今回はケイシー療法によるがんの予防と治療ということでお話しいたします。

まず、導入として、私がケイシー療法によるがんの治療法を研究するようになった経緯からお話ししたいと思います。

私は、これまで40年近くエドガー・ケイシーを探究してまいりました。しかし、ケイシー療法によるがんの治療法を研究するようになったのはここ15年のことです。それまでも、エドガー・ケイシーががんの予防と治療について、どのようなリーディングを残しているか、そのおおまかなところはいくつかの書籍や資料を通して知っていました。例えば、肉類と揚げ物を禁食にして、葉物の野菜とニンジンをたくさん食べるようにするとか、生アーモンドを食べるとがんの予防になるとか、がんに対するケイシーのアドバイスを断片的に覚えていました。しかし、私自身は、リーディングの他の分野に関心が向いておりましたので、がんについてはそれ以上の探究はしていませんでした。

しかし、今から15年前のことになりますが、私は2つのことをきっかけに、ケイシーのリーディングに残されているがんに関する情報を徹底的に研究するようになりました。

最初のきっかけは、私自身の母が卵巣がんになったことでした。それも、見つかったときには、余命を宣告されるほど進行していたのです。

私の母は元来丈夫で、私が記憶している限りでは病氣らしい病氣をしたことのない人でした。父の仕事の経理を手伝ったり、畑で野菜をつくったりと、毎日元気に過ごしていました。

その母が、半年くらい前からどうも腹痛が続いているというのです。病院の薬を飲んであまり改善しなかったようですが、母自身、それほど大変な病氣とは思わず、我々子供にも言うことなく、そのまま腹痛が起きるたびに病院に行っては薬をもらってきていました。しかし、少し前から腹痛がひどくなり、しかも腹水が溜まってきただけというのです。それも、急速に。

あれよあれよという間に、母は妊娠していたときよりもお腹が膨らんだ、というく

らい腹水が溜まり、ここに至って、病院のドクターたちも慌てて緊急手術ということになり、私の妹と母の姉が病院の手術に立ち会うことになりました。

ドクターたちは腹膜炎のようなものを予想していたようですが、いざお腹を開けて見ると、腹腔全体に黒いゴマが散っているかのようにがんがあちこちにできていました。これでは手の施しようがないということで、ドクターたちは特別何かすることもなく、腹水だけ抜いて、そのまま閉じたそうです。妹と伯母は手術室の中に入られ、実際に、母の腹腔内の様子を見せられたそうです。手術に立ち会った直後の妹からすぐに電話があり、医者のお話を伝えてくれました。

原発は卵巣がんで、すでにあちこちに転移していて、腹腔全体がんだらけだった。もう手の施しようがない。ドクターの見立てでは、ギリギリもって1週間。医学的な処置を目いっぱい施しても2週間もたせるのが限界だと。しかるべきお別れが必要であれば、至急に親族を集めてくださいと。こう聞かされて、私の頭の中は真っ白でした。

電話を受けたとき、私は東京で打ち合わせをしておりましたが、そのまま打ち合わ

せを切り上げ、数カ月分の仕事をすべてキャンセルして、その晩、飛行機で広島に戻り、空港からタクシーで1時間くらいかけて地元の病院に駆けつけました。

妹も伯母も、まさかこんな状態だとは思っていませんでした。広島病院のドクターたちも、がんだと思っていなかったんです。開けてみたらがんが相当に進行していた。私も信じられない気持ちでしたし、何しろ私は親孝行らしいことを何もしてこなかったのです、このまま母が1週間とか2週間で亡くなってしまうたら、とても後悔する。そういう気持ちもありました。そして、まだ何かできることがあるはずだと思つて、広島にいた母を無理やりに東京の病院に移しました。ちょうど妻の知り合いが大病院の先生をしておりますので、その大病院に特別に入れていただきました。大病院に入った以上、何もしないわけにはいかないので、一応、抗がん剤治療を受けるということで入院させてもらったのですが、我々としては、できる限りのケイシー療法を母親に実行しようと思っていました。そこで、私は直ちにケイシーのリーディングを調べ始めました。特に卵巣がんあるいは子宮系のがんに対して、ケイシーがどのようなことを述べているか大急ぎで調べたのです。そして考えられる限りのケ

イシー療法を行いました。すなわち、食事療法、毒素排泄法、そして後でメインにお話しいたします、フラーレン・フォトセラピーを行いました。これらはすべて自宅でもできます。

そうしましたら、抗がん剤を投与したドクターたちが口をそろえて「あなたのお母さんはものすごく抗がん剤が効いていますよ。ここまで劇的に効いた人はいません」と言われるほど母は回復してきました。主治医から、「よかつたら成果を学会で発表させてください」と言われるくらい、うちの母親はよくなったのです。卵巣が2つともパンパンに腫^はれていて、がんが腹腔全体に散らばっていたのですが、2週間もしないうちに、片方の卵巣は正常の大きさに戻り、もう片方も随分小さくなった。広島のとくたくには、ここまで大きいと手術のしようがないと言われたのですが、大学病院の主治医から「今だったら原発の卵巣がんを取ることができるともいれませんが、やりますか」と言われたので、我々は迷うことなく手術をお願いしました。

手術することを迷わず決めたのには理由があります。それは、ケイシー療法に取り組む前に、母自身がある夢を見ていたのです。私はその夢を解釈して、ケイシー療法

に反応するはずだという手応えを持っていました。しかし同時に、夢そのものが、一部は外科手術による処置が必要だと伝えていたのです。なので、迷わず手術をお願いしました。

手術はドクターが3人がかりで行う大手術になりました。早朝から始まり、終わったのは夜の9時頃でした。手術が終わって担当医から、「あなたのお母さんのおなかを一通り見回しましたが、肉眼で見える限りがんはどこにもありませんでした。卵巣がんだと聞きましたが、卵巣の状態も非常にきれいです。子宮も卵巣も全部取りました」と言われました。そして私自身、実際に摘出された母の子宮と卵巣を見せられました。素人目にも、きれいなピンク色をしていて、ドクターが「肉眼で見える限りがんはどこにもありません」と言われた状態を自分の目で確認することができました。

それから母は急速に回復して、2カ月後には退院しました。そして、半年くらいしたところで広島の元の病院に行つて、保険の手続をしたところ、広島の方々は、東京に行つてもう死んだと思つていた私の母親が、元気な姿で車を運転して保険の手続に来たので、ぎょっとしたそうです。母はニヤニヤしながら手続をして帰ってきた

そうです。我々も少しばかり親孝行をすることができたように思えました。

残念だったのは、2年くらい経ったところで、今度は広島に残していた父親が脳梗塞で倒れてしまったのです。誰かが看病に帰らなければならぬということで、母親が帰ることになりました。そして母はそれから父の看病をずっとしたのですが、その間、自分自身のケイシー療法を継続することができなくなってしまうました。そのため、2年半後くらいにがんが再発してしまいました。

再発する直前に、母がまた夢を見ました。そして、夢の知らせから、我々は母親が向こうの世界に帰る準備ができたんだということがわかりました。ドクターたちもこの再発はさすがに手の施しようがないと考えられておられたので、我々も特別厳格なケイシー療法をすることもなく、母親が望むようにいたしました。最初に発症してから3年ほどで亡くなりましたが、その間、母親は元気に過ごしました。2年半でしたが親孝行らしいことをすることができて、僕らもいくらか心穏やかなんです。これがケイシー療法によるがん治療を研究するようになった最初のきっかけでした。

もう1つは、母が亡くなって1年後、今度は私の友人が胃がんになりました。彼は「胃ががんが見つかったから、ちょっと入院して取ってくる」のような口調だったので、私もそこまで深刻に考えませんでした。初期のがんで、ちょっとした手術ですぐに出てくるのだらうと思っていました。ところが入院して1カ月後くらいには面会謝絶になり、お見舞いに行くこともできなくなってしまいました。そして入院して3カ月後には亡くなってしまったのです。ある意味で、母の死よりも私にはショックでした。私より2つ年上で、そんなに年齢も変わらなかつたんです。

私はこの2つの体験がきっかけで、エドガー・ケイシーのリーディングを少なくともがんに関しては徹底的に研究しようと決心し、そこから調べ始めました。全部で510件くらい、がんについてのリーディングがあります。その半数が、このままいくとがんになりますよという警告で、残りの半分が、すでにがんを発症した方々の治療のためのリーディングでした。この2つを研究することによって、1つは予防法がわかる。もう1つは具体的な治療法がわかる。私はがんについてのリーディングを約1年半かけて読み込みました。そして私の中では、少なくともケイシーががんについて

何を語ったのかは十分了解できたところでレポートをつくって、皆さんにその成果を発表いたしました。今日はそのレポートの内容に基づく情報と、実際にリーディングの勧める方法を実行してよい成果を出された方々のお話をする事になります。

*「ケイシー療法によるがん治療の指針」（日本エドガー・ケイシーセンター発行）

◇がんの原因は血液の劣化

私がリーディングを徹底的に研究して理解したのは、がんというのは結局のところ、血液の質の劣化によって起こることです。逆に言えば、血液の質が劣化しなければ、がんには極めてなりにくい。

厚生省の説明によれば、あと10年もすれば、日本人の2人に1人ががんになり、3人に1人はがんで亡くなるだろうとされます。3人に1人ががんで亡くなる時代ですよ。そして、がん患者が1人出ると、その家族の経済的負担は約500万円と言われ

ます。これは通常のパターンに従って治療を行った場合の負担です。もしも先端医療を加えれば、さらに数倍の金額がかかってしまう。これは個人にとっても家族にとっても大きな問題です。また国家にとっても、多くの方々ががんを治すために高額な医療費を使うというのは非常に深刻な問題です。

私は、エドガー・ケイシーが主張するように血液の劣化を防ぐことができたならば、がんは極めてなりにくい病気だと確信するようになりました。私はほどほどにケイシー療法を実践しているほうですが、そのようなケースでは100人に1人くらいががんになるかもしれません。しかし、もしもケイシーの勧める食事療法をきっちり守ったなら、おそらく1000人に1人とか、極めてなりにくい病気になるだろうと私は信じています。この情報が世の中に広まるだけでも、個人にとっても家族にとっても、そして国家にとっても、とても有益だと私は思っています。

がんは血液の劣化によって起こるとケイシーは主張するわけですが、血液の劣化は、さらに詳しく見ると4つに分けられます。

まず1つ目は、酸・アルカリのバランスが崩れて酸性過多になることです。

どうして酸性過多になるかというと、我々の食生活に問題があるからです。何が我々の体を酸性過多にするかというと、肉食と炭水化物の多食です。その一方で野菜不足、果物不足です。これらのために日本人のほとんどは常時、酸性過多になっています。この状態を続けていけば、それこそ2人に1人ががんになってもまったくおかしくない。まずは酸性過多になる原因である食生活を正す。これがとても重要です。短期間で体質を弱アルカリに戻すためにケイシーが勧めているのが、柑橘系の果物を食べるという方法です。食事法についてはまた後で詳しくお話します。

2つ目は、血液中の老廃物が増大することです。

これの原因としては、肝臓あるいは腎臓の負担が多過ぎる。もともと食べ物の老廃物がふえているので、それを肝臓、腎臓が処理し切れなくなる。そういう食べ方をしている。そのために血液中に老廃物がどんどん溜まっていく状態になっている。

3つ目は、血液の凝固力が低下することです。

私はがんの治療法に関するさまざまな文献を読みましたが、血液の凝固力を問題に

している研究は、いまだかつて見たことがないです。肉の多食とか、そういったことを指摘する書籍はたくさん読みましたが、血液の凝固力が低下することががんを招くと主張しているものには遭遇したことがありません。しかしエドガー・ケイシーは、血液の凝固力が低下するとがんを招きやすくなるとはつきりと主張しています。

ケイシーの主張によれば、我々の免疫細胞ががん化した細胞を見つけて攻撃を加えるときに、血液の凝固力をもとに武器をつくるそうです。血液の凝固力が低下しているということは、免疫細胞が十分な武器を持ってないということです。

いろいろな文献が主張しているように、健康な人でも、人体は1日数千個、がん化した細胞をつくります。細胞が分裂するときに、ちよつとしたトラブルが生じてがん細胞を見つけてきっちり排除してくれるので、我々は健康体を維持することができます。しかしながら、がん化した細胞を攻撃しようにも、凝固力が低下しているときには攻撃し切れない。中途半端な攻撃を加えて、がん化した細胞を生き残らせてしまう。そうすると、それはいよいよ凶悪ながん細胞となって、仲間をふやすようになるわけで

す。それを避けるためにも、血液の凝固力を高めましょうというのがケイシーの主張です。

具体的には食事療法で実現するわけですが、中でもニンジンが勧められます。とにかくニンジンを食べる。後でまたお話ししますが、私の知り合いで、ニンジンを食べ、それ以外ほとんど何もしないでがんを治した人がいます。そういう人を私は少なくとも1人は知っています。ニンジンの重要性については、私はその人の体験からも確信しています。

4番目は、酸素の供給能力が低下することです。

もしもがんが勢力を持って、体内に塊をつくったとしても、体内の酸素が十分あるときには、がんは凶悪化しない。1カ所にとどまっている。がんの周囲に十分な酸素がなくなると、がん細胞は「遊走能」という能力を獲得して転移を開始します。がん細胞が自分の身に危険が及んでいると考えて、遊走能を発揮して、今いる場所から分離して、よその場所に新天地を求めていこうとするわけです。血液中の酸素供給能力が十分あるときには、転移する可能性はうんと下がります。がんが限局化した状態で

とどまってくれているということです。ところが酸素の供給能力が低下すると、がんはあちこちに転移しようとして動き始めます。

このように血液の劣化には4つの種類があります。酸・アルカリのバランスが酸性過多に傾く。血液中の老廃物がふえる。血液の凝固力が下がる。そして、酸素供給能力が低下する。この4つを自覚しておいて、そうならないような日常生活を送るようになれば、我々はがんに対して極めて高い免疫を保つことができます。実際にがんの治療をしている方々も、そのことを心がけて生活すると、さまざまな治療がうんと有効に働くようになります。

この4つを、どうやって維持していくのか、高めていくのか、これから具体的にお話しいたします。

◇ 食事のバランスが悪いことが大きな要因

ケイシーのがん治療の基本は食事療法です。何を食べたらいいいのか、何を食べては

だめなのか。それから、どの組み合わせがだめなのか、あるいはどの組み合わせがより有効なのか。これらをしつかり認識して、そのような食生活を心がけます。ケイシー流の食生活をする、今までの食生活を大きく変更させられることが多いので、それに抵抗を覚える人が多いです。例えば、ビールが好きな方は、少なくとも治療中はビールを禁止されますし、豚肉、揚げ物が好きな方も、基本的にこれらは禁食になります。食べられないものがふえて嫌だと言われる人が多いですが、これまでの食生活ががんをつくったわけですから、食生活をそのままにして治すというのがどだい無理な話なんです。それに、戦前の人たちはそこまで豚肉とか揚げ物を食べていなかったはずです。昔の人は、それで全然苦でなかったわけですから、ある意味で、慣れの問題です。食べられるもので工夫すればちゃんとおいしく食べられるということを了解してやっていただきたいと思います。

ちなみに、近々、恵比寿のフレンチのお店で、ケイシー流のフレンチ料理をつくってもらうことになっています。フレンチ料理でも、ちゃんと工夫すれば、まったく問題なくケイシー療法に従った料理を出すことができることをシェフと共に証明したい

と書いています。工夫次第ですから、皆さんもめげないで食事療法を実行してください。あればありがたいです。あるいは、適切な食生活を基本にするようにされれば、がんだけでなく、30代前半くらいの健康を、ほとんど晩年に至るまで維持することができると私は思っています。

私は今、58歳ですが、体型と体力は30代くらいそのまま全然変わってないです。私は20歳からずっとケイシー療法を行っていますから、そのおかげだろうと思っています。あるいは、若い頃にあつたいろいろな慢性病も、基本的に今はほとんどないです。きちんと食事療法を実行すれば、相当晩年に至るまで、健康な体を維持することができます。

食事療法がメインで、それに続いて毒素排泄法が大切になります。前回の皮膚疾患でも説明しましたが、ひまし油パックと腸内洗浄、これをがんの場合にはさらに忠実に励行します。やり方は、また後で説明します。

それから人によっては、筋骨格系がひずんでいることが神経の流れをひずませていて、それががん化を招いていることがあります。そのために、場合によって筋骨格系

を整える整体が勧められることがあります。私ががんの相談を受けた場合には、念のため、まずは筋骨格系の調整をもらおうようにしています。オステオパシーでもよいし、カイロプラクティックでもよいのですが、例えば自分の体が前かがみになっていたりとか、あるいは明らかにどこか骨格がひずんでいるというような場合には、そういったものを残しておかない。姿勢が悪いというのは、いろいろな面で健康上よろしくないです。姿勢を正すことは極めて重要です。

それから3番目、これはがんがすでに相当進行している場合には必須の治療法になります。ごく初期であれば食事療法だけで治ることも多いですが、ある程度進んで、ステージⅢとかⅣくらいになった場合には、「フラーレン・フォトセラピー」という治療法が必須になります。後半で、フラーレン・フォトセラピーについて詳しく説明いたします。

それから、日常でサプリメントのように取り入れることのできるハーブがいくつかあります。実際にかんの患者さんたちは、代替療法だけでやり切るのはいくらか不安が残る。あるいはご家族が反対する。そのために病院に行きながら、私の母がそうだ

ったように、抗がん剤治療や外科手術、放射線治療を受けながら、代替療法あるいはケイシー療法を併用するというケースが相当にあります。そういう場合、抗がん剤あるいは放射線療法によって体力がガクッと落ちることが多いです。そのときに体力を回復させるための強壯剤をケイシーが勧めています。これについても知っておられると、西洋医学と併用する場合にとっても助けになります。私の母親もこれを徹底的にやりました。

あとは、がんとなるとどうしても心が落ち込みます。落ち込んだ心が、また血液を汚すことが多いのです。心の状態と血液の質は密接にリンクします。肉体的にいくらいい食事をして、心の状態で血液が劣化することがあります。それを避けるために、心をどうやって維持するか、うららかにするか、その考え方もとても重要です。

がんの場合、前世のカルマが影響することは非常に少ないです。私はケイシーのリーディングを調べましたが、「この人のがんはカルマが原因だ」と指摘された人は、私の記憶では数人くらいしかいません。カルマが病気を引き起こす場合には、神経系の病気として現れるほうがはるかに多い。カルマが原因でがんが起きることは、私

の中ではあり得ないくらい少ないです。がんて亡くなった人を見て、「あの人は前世の業が深かった」などと考えるのは考え過ぎです。むしろ日常生活の食生活のバランスが悪かった。そして適切な食事を知らされてなかったがために、がんになりやすい状態になっていた。そう考えて、それを本来あるべき食生活に戻していけばよいのだと了解してください。

今から私は食事療法、毒素排泄法、整体、フラレン・フォトセラピー、ハーブ療法、もろもろを説明してまいります。そして、最後に心についてお話します。これらはどのがんにも共通する方法です。そして一度質疑応答の時間をもうけ、その後で、がんの部位ごとのバリエーションについて説明します。例えば、肺がんであれば、肺がんりの治療のバリエーションがあります。脳腫瘍のうしゅようであれば、脳腫瘍のうしゅようなりのバリエーションがあるので、各部位ごとのがん治療法のバリエーションについてお話しいたします。

まずは、すべてのがんについて共通する部分から説明いたします。

◇ 獣の肉と揚げ物はだめ、エビ・カニ以外のシーフードはOK

まず食事の基本です。これは前回の皮膚疾患でもお話しいたしましたが、がんの場合には、いくつかの項目をさらに厳格に守ることが必要になります。ケイシー療法では、全般的にノー・ポーク、つまり豚肉は基本的に食べない。どうしても食べたい場合は、徹底的に脂抜きをすると前回お話ししましたが、がんになった場合には、脂抜きした豚肉であろうと食べないようにします。さらに、基本的に獣の肉は一切禁止します。すなわち、牛肉もラムも禁止です。できたら鳥肉も禁止したいところです。

ただ、余り厳しく言うと、それ自体がストレスになることがあります。それは避けたいので、ときどきは鳥肉くらいは食べてもいいんじゃないかなと思います。ここはあんばいです。理想的には全部禁止したいのですが、それが心のストレスになるとかえってマイナスなので、ご自身で自分の心のバランスを考えて、週に1回とか月に1回とか焼き鳥屋に行くなど、ある種ご褒美で食べればいいんじゃないかなと思います。今週もよく頑張りましたと、そのご褒美に焼き鳥屋に行って、ちょっと羽目を外す。

それで心のバランスがとれるのであれば、それもよしです。でも、原則的には獣の肉は禁食です。特に豚肉は厳禁です。

揚げ物は基本的に食べない。がんになったら、てんぷら、コロツケ、もろもろのフライは食べません。逆に言うと、豚肉と揚げ物を食べるから、がんになりやすい体質になるわけです。もし皆さんが、誰か早めに向こうの世界に行ってほしい人がいたならば、トンカツを食べさせる。しかも脂身がたくさんあるところをおいしそうにつくって食べさせると、多分数年以内に直腸がんか大腸がんになるはずですから、保険金をしっかりと掛けて、食べさせればよいと思います（冗談です！）。

食べてよいのは、基本的にはシーフードです。ただし魚でも、余り大きい魚は避けたい。大きさとしてはカツオくらいが上限です。青魚、小魚からカツオくらいの範囲の魚を食べるのはオーケーです。とりわけ白身のお魚のほうがよいのですが、ときどきカツオくらいであればオーケーです。マグロも赤身ならよいのですが、中トロ、大トロになると脂がきつくなってくるので、いくらか控えめにする。禁食にするまでではないですが、とりあえず控えめにします。多分がんになった人は、すでに味覚が大

トロとかは好まないと思います。赤身くらいがちょうどよいです。

食べてはいけないシーフードが2つあります。それはエビとカニです。エビとカニがなぜだめかというと、エビとカニは基本的に海の底のほうにいて、上から落ちてくる死んだ魚類の死肉を食べます。英語でスカベンジャーといいますが、海の掃除屋さんという意味です。死肉には食物毒素がたくさん含まれています。それを食べて、さらに濃縮してしまうわけです。濃縮した毒素を持っているのがエビ・カニです。健康な人は少々食べても大丈夫ですが、がん患者が食べるにはふさわしくありません。エビ・カニは基本的に食べないほうがよい。これもまたストレスになるといけないので、ときどきはご褒美に食べる。エビ・カニは月に1回少し食べるくらいにしたほうがいいんじゃないかなと私は思います。

タコ・イカは、ほどほど避ける。タコ・イカもやはり毒素を溜めています。考えてみれば、これらはアレギーのもとになりやすいものをたくさん含んでいます。そういう意味でも、まずはエビ・カニを避ける。その次にほどほど避けるのがタコ・イカの類いだと了解してください。白身の魚とか、あるいは小さい青魚、イ

ワシとかアジとかサバとか、そういうった魚が喜ばしいわけです。

◇葉物野菜を食べ、糖分の多い炭水化物を避ける

そして、がん治療で極めて大切なことが、新鮮な葉物野菜を豊富に食べるということです。がんの場合に、エドガー・ケイシーがとりわけ強調した葉物野菜が3つあります。それらを頻度順に言うと、まず1位がクレソン、2位がセロリ、3位がレタスです。ですから、がんになったならば、これら3つを食事のどこかで必ずしつかり食べるのが重要です。この中で一番効くのがクレソンです。クレソンを食べれば血液の浄化が早いです。

これらの食べ方は、新鮮なものをできるだけ生で食べます。生が嫌なら少し火を通してよいですが、できるだけ生野菜として食べる。味のつけ方は、それこそオリーブオイルにレモンを絞って、塩・コショウ少々みたいなドレッシングか、あるいはマヨネーズみたいなものでもよいです。うちでよくやるのは、セロリとニンジンステ